

事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 4 年 12 月 26 日

事業所名 放課後等デイサービス スマイリーハーツ

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係 で適切である	70%	30%	0%	満床の場合窮屈 感はあるが収納を 工夫している	限られたスペースの為、収納や 配置など更に工夫していく
	②	職員の配置数は適切である	100%	0%	0%	利用児童や曜日で配 慮して配置している	児童の特性も考慮し十分な職 員配置にしている
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の 配慮が適切になされている	70%	30%	0%	対象児童なし	段差等には配慮し安全に過ご せる工夫をしている
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル (目標設定と振り返り) に、広く職員が参画 している	100%	0%	0%	毎日のミーティングで の振り返りと改善を 行っている	
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアン ケート調査を実施して保護者等の意向等を 把握し、業務改善につなげている	100%	0%	0%	イベント時などにはアン ケートを実施し意 向を伺うようにしてい る	今後も実施していく
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開している	0%	0%	100%		今回初年度のため今後も実施 していく
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげている	0%	50%	50%		実施していない
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会 を確保している	70%	30%	0%	外部講師の研修も取 り入れている	今後も時間を有効活用し研修の 機会を設けていく
適切な 支援の 提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者の ニーズや課題を客観的に分析した上で、 放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%		今後も引き続き保護者のニーズ を反映させた個別支援計画を作 成していく
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準 化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	0%	推奨のものを使用し ている	
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	0%	プログラムミーティ ングで決定している	
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫して いる	100%	0%	0%	一連の流れは固定化 している。内容はそ の都度変えている	
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ 細やかに設定して支援している	100%	0%	0%	児童の特性も考慮し 細やかに支援をして いる	
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動 を適宜組み合わせ放課後等デイサービス 計画を作成している	100%	0%	0%	なるべく一日の中に 集団と個別で対応す るプログラムが両方 入るように計画してい る	
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、 その日行われた支援の内容や役割分担に ついて確認している	100%	0%	0%	毎日のミーティングで 行っている	
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、 その日行われた支援の振り返りを行い、 気付いた点等を共有している	100%	0%	0%	終礼時のミーティ ングで共有を行っている	
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを 徹底し、支援の検証・改善につなげている	70%	0%	30%		支援経過記録を毎日記録して いくようにする

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等 デイサービス計画の見直しの必要性を判断 している	100%	0%	0%		今後も引き続き行っていく
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合 わせて支援を行っている	100%	0%	0%		今後も引き続き行っていく
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最も ふさわしい者が参画している	100%	0%	0%	児童発達支援管理責 任者が参画している	
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定 等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、 連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時 の連絡）を適切に行っている	100%	0%	0%	学校からのお便りを もらう等、保護者以外 からの情報共有も 行っている	
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合 は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	0%	100%		該当児童なし
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、 認定こども園、児童発達支援事業所等との 間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%	0%		計画相談を行っている児童に関 してはサービス担当者会議を通 じて行っている
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所 から障害福祉サービス事業所等へ移行する 場合、それまでの支援内容等の情報を提供 する等している	0%	0%	100%		該当児童なし
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援 センター等の専門機関と連携し、助言や研修 を受けている	100%	0%	0%	行政で行っている研 修等に積極的に参加 している	
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害 のない子どもと活動する機会がある	0%	0%	100%		コロナ禍で実施出来ていないが 落ち着いたら実施していきたい
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に 参加している	100%	0%	0%	行政で行っている研 修等に積極的に参加 している	
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、 子どもの発達の状況や課題について共通理解 を持っている	100%	0%	0%	なるべく小さなこと でも保護者とシェア 出来るようにしている	
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、 保護者に対してペアレント・トレーニング等の 支援を行っている	30%	0%	70%	外部講師を招き定期 的に保護者支援も 行っている	コロナ禍で実施していなかった が今後は実施していきたい
保	⑳	運営規程、支援の内容、利用者負担等につ いて丁寧な説明を行っている	100%	0%	0%		不明点が残らないようにわかり やすく説明する
	㉑	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に 適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	0%	面談等相談しやすい 環境作りを図り対応 している	
	㉒	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を 開催する等により、保護者同士の連携を支援 している	0%	0%	100%		コロナ禍に置いて開催は難し かったが今後は実施していきたい

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
護 者 へ の 説 明 責 任 等	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	0%	小さなことでも質問出来るようにLINE連絡などを取り入れている	
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	0%	LINE等を利用して活動中の写真等も保護者の方とシェア出来るようにしている	
	③⑤	個人情報に十分注意している	100%	0%	0%		今後も十分注意していく
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	0%	LINEツール等も活用し手間なく連絡が取れる手段も導入している	現状の他、新しいツールの取り扱いも検討しスムーズな情報伝達を図る
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	0%	100%		コロナ禍のため難しかったが今後検討していきたい
非 常 時 等 の 対 応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	0%		今後は訓練だけでなくマニュアル等の周知も図っていく
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	0%	年2回は避難訓練を実施している	定期的に行っているがお休み児童までの周知はなされていなかったため今後はお知らせしていく
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	0%	定期的に開催、外部講師の研修も実施している	
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	0%	0%	100%		今後対象児童には記載していく
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	0%	70%	30%		アレルギーの有無は保護者から情報シェアをしているが医師からの指示書による対象児童はいない
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	0%	なるべく小さなことでも記録し事故防止に繋げている	なるべく小さなことでも記録し事故防止に繋げている

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。